

# 若者が動けば、大人が変わる 大人が変われば、地域が動く



## 1. 鯖江市の概要

本市は、福井県のほぼ中央に位置し、東西は19.2 km、南北は8.3 kmにわたり、面積は84.59 km<sup>2</sup>。人口は、県内で唯一増加し続け、2018年10月1日現在、市制施行以来最高値の69,434人となっています。

主要産業は、眼鏡フレームの国内生産シェア9割以上を占める眼鏡産業、繊維王国福井の中核を担う繊維産業、1500年余の歴史を有し、国内業務用漆器の約8割の生産シェアを占める漆器産業の三大地場産業。そして、近年では、眼鏡で培ったチタンの微細加工技術の集積を活かした医療やウェアラブル情報端末などの異分野への進出をはじめ、サテライトオフィスの誘致による若者に魅力ある雇用の創出や、女性の活躍をはじめとする持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて取り組んでいます。



### 国内生産シェア約9割の眼鏡フレーム

小都市でありながら、1995年には世界体操競技選手権大会、1998年には体操競技ワールドカップ決勝大会などを開催。現在、「学生連携のまちづくり」、「市民主役のまちづくり」、「オープンデータによるITのまちづくり」を柱としてまちづくりに取り組んでいます。

## 2. 活動開始の背景・経緯

2003年に「鯖江市市民活動によるまちづくり推進条例」、2010年に「鯖江市民主役条例」を市民提案により制定し、他地域に先駆けて「市民主役・市民協働」のまちづくりを進めてきました。しかし、活動は一部の市民や特定の団体の間に留まることが多く、その裾野を広げることが課題でした。特に、女性の高校卒業後の地域離れは顕著になっており、地

域に興味や関心・愛着を持ってもらうための施策が必要でした。

こうした中、2014年1月19日に市内で開催された「第1回おとな版地域活性化プランコンテスト(主催:NPO法人エル・コミュニティ)」において、東京在住福井県出身の若新雄純氏(慶應義塾大学特任准教授)の率いるチームが「これからの鯖江市役所の公務員像とは?」というテーマに対し、女子高校生(通称:JK)がまちづくりに参画する「鯖江市役所 JK 課プロジェクト」を提案したことが誕生のきっかけとなりました。ただし、プロジェクトのコンセプトとしては、行政にありがちな「大人が作り込んだ結論ありきのモノ」に女子高生を巻き込むといったデザインではなく、これまで市役所や公共サービスに直接関わることの少なかった普通的女子高生たちがまちづくりの主演となり、やってみたいまちづくり活動を自らが提案し、市役所をはじめ、市民団体や地域の大人たちを巻き込みながら具現化するという女子高生が大人を巻き込む「ゆるさ」を重視した新しい市民協働推進のカタチとなっています。



JK 課 2014 スタートアップ 記者会見

市としては、こうした女子高生が自由な環境下で活動することにより、予想外の化学反応が生まれることを期待するといった成果の曖昧な施策は、行政という立場上、避けて通りたいところではありましたが、若者や女性が日常生活の中で気軽に地域活動に参加し、いつの間にか、まじることが「他人ごと」から「自分ごと」に変化していくことを目指す、

「目に見える成果よりも心の変化」を求め、2014年4月14日に「鯖江市役所 JK 課」をスタートしました。

## 3. 誹謗中傷と言葉の価値観の違い

2014年当時、女子高生によるサービスを売り物にした商売が「JKビジネス」として社会問題化されてきた時期と重なったこともあってか、2014年2月20日、JK課プロジェクトに関する報道がなされるとすぐに、全国から「隠語の『JK』を市役所が使うのはいかがなものか」「市役所が新たなJKビジネスでも始める気か」といった誹謗中傷が、1週間で100件近く殺到し、JK課への参加を禁止する高校も出てきました。ただ、苦情の多くは東京や大阪、名古屋といった大都市圏からであり、市内からはむしろ応援する声を多くいただきました。

また、市の幹部からも「JK課」ではなく「女子高生によるまちづくり課」という名称の方が無難ではないかとの声もあがりました。こうした誹謗中傷の声は、JK課メンバーの耳にも入り、「『JK』という言葉は、私たち高校生にとって3年間という期間限定の身分の象徴であり、特別な優越感や愛着をもって普段から使っています。なぜ、大人たちはいつも私たちのことを無視してそんな風に言うのでしょうか。『JK課』じゃないなら辞めます。」と訴えてきました。結果、若者の意見を尊重し、大人の常識や型を押し付けることなく「JK課」という名称で進めていくことになりました。



## 4. JK 主役、大人は裏方

プロジェクトの実施にあたって重要視していることは、大人がまちづくりや市政といったことを教育せず、

主役である女子高生たちを「信じて、任せる」こと。活動時の服装や髪色も高校生自身に判断を任せています。大人からの押し付けは一切排除し、大人はメンバー自身が考えたものを後方からサポートすることに徹しています。



#### やりたいことは自分たちが

また、JK 課の会議は大人が主導することなく、お菓子やジュースといったアイテムを使って話しやすい雰囲気を作り、時には「KJ 法」という手法を用いたりして、やってみたいことや普段の悩みごとを付せんに書き出しグループ分けしながら、幾つかのプロジェクトにまとめていきます。JK 課にリーダーは存在せず、フラットな関係の中で、やってみようと思った企画ごとに LINE グループを作って、その企画をやりたいメンバーが市役所に集まって、企画を進めます。

### 5. 地域資源の活用と住民との絆

JK 課メンバーに企画を委ねて、いったいどんな企画が飛び出すのか、不安になるのは普通ですが、高校生を侮ることなかれ。大人が若者を信じて任せることで、JK 課というプライドからかとても素敵なアイデアが誕生します。5年間で13回を数えた「ゴミ拾い企画」では、小学生から高齢者まで幅広い世代の市民が毎回 100人以上集い、参加者全員が「何か楽しい」を感じながらゴミ拾いボランティアを行っています。

また、地域の方々から多くの支援を受けながら活動している代表的な活動としては、JK 課オリジナルスイーツの開発です。スイーツで地域を盛り上げようと、市内菓子店 11人からなるパティシエグループ「ポーノ夢菓房」の積極的な協力をいただきながら、地域住民との深い絆の中で、発足当初から 5年にわたって、製作・販売し続けています。



#### JK 課オリジナルスイーツ製作・販売

更には、福井県眼鏡協会の協力により、国内生産シェア 9割以上を誇る地場産業のメガネフレームを女子高生の視点でデザインし、国際メガネ展 IOFT に出展し商談に参加するなど、全国に向けて地場産業の PR に寄与しました。また、鯖江商工会議所眼鏡業部会から提供していただいたメガネをかけて、イベント開催時や視察・講演時に鯖江のメガネを PR しています。

### 6. 多世代波及と全国への横展開

発足当時は全国からの誹謗中傷もあり、学校側の賛同はほとんどなく、2校 13人でのスタートでしたが、多くの市民の協力と支援をいただき、JK 課が女子高生の居場所の一つとなっていることや、地道なまちづくり活動が認められ、JK 課の活動を公欠扱いにさせていただくなど、学校側との間で信頼関係が育まれていき、2018年 11月現在では、6校 45人の女子高生が集まっています。さらに、2016年度は現代社会、2017・2018年度には家庭科の高校の副読本にも JK 課プロジェクトが取り上げられるなど、社会的な評価も受けるようになりました。



#### 現代社会副読本の表紙に採擷

また、女子高生が自由な環境下で大人を巻き込みながら活動することにより、予想外の化学反応が生まれるというコンセプトに、ほどなく多様な世代が賛同し始め、40歳以上の女性たちが、私たちにも何かできることがあるのではと、2014年 6月、「鯖江市 OG (おばちゃん) 課」を発足してイクメンパパへの支援や婚活

イベントを企画、また、男子高校生たちも 2015年 4月に JK 課 OG が設立したまちづくりグループ「SAN」に加入して活動を始めるなど、まちづくり活動が「自分ごと」として多世代に波及しています。

こうした中、全国から JK 課プロジェクトへの視察も年々増え続け、実に発足から 5年間で 180団体 2,600人以上の方々が鯖江市の地を訪れています。さらに、2016年には姉妹プロジェクトとして、愛知県豊橋市 JK 広報室や滋賀県湖南市役所 JK 課が誕生するなど、全国へ横展開しています。



#### 全国高校生まちづくりサミット

### 7. 変化したモノ

これまで大人は若者に対し「地域に無関心な若者に意見を求めても無駄」といった先入観があったと思われれますが、このプロジェクトを通じて大人側のこうした思い込みが排除され、若者と一緒になにかやってみようと思うようになったことも、大きな成果の一つであり、大人側の「変化」であると考えています。さらに、福井県では高校生の約 4割が県外へ転出している中、JK 課卒業メンバー 19人のうち 17人は県内での就職や進学の道を選び、そのうち 13人は市民団体を設立するなど、今なおまちづくり活動を自らが楽しんでます。メンバー自身にとって、地域住民や行政とのつながりの中で、社会そのものが「他人ごと」から「自分ごと」へと変わり、主権者意識が芽生えてきたことこそが大きな変化であり、成果と言えるかと思います。



#### 楽しさとゆるさから生まれた変化